ご挨拶

副会長　平安　明

この度沖縄県医師会副会長の任を拝命いたしました平安明と申します。

私は平成16年に浦添市医師会の理事に就任後、平成20年から県医師会の理事として医師会活動に関わってきました。県医師会理事就任直後から医療保険の担当として、主に医療機関の厚生局による指導の立会いや、保険診療に関する勉強会、保険診療に係る種々の問題への対処等に関わってきました。あまり表に出るような仕事ではない場合が多く、会員の皆様ともそれほど面識がない中で医師会活動をしてきたように思います。

現会長の田名毅先生とは同時期に県医師会理事に就任し、年齢的にもほぼ同世代なのでいろいろとお話をする機会がありました。彼の人柄や医療に関する知識、沖縄県の将来や県民の健康に対する考えを拝聴するたびに、その深い見識に感服し、「彼は近い将来必ず沖縄の医療のまとめ役として活躍するだろう」と感じていました。私は生意気にも「その際には幾ばくかのお手伝いをして彼を支えていこう」と勝手に考えていたところですが、なんとそれが早々と現実になってしまいました。

私も県医師会の3役についた以上はその責任はこれまでの比ではないと思いつつ、自分に何ができるのか考えてみましたが、何も絞り出すものがないことをあらためて思い知り愕然としています。それでも捻りだした私ができることの結論は、至極当たり前ですが、「多くの人の意見を聞き、皆で何をすべきか話し合うこと。そして、できる人に任せそれを支えていくこと」でした。

沖縄にはそれこそ優秀な医師、医療関係者がたくさんいます。そのような方々が柔軟に関われるような、風通しの良い医師会にしていくこと。これは、田名会長が目指す「男女を問わず、若手・ベテラン、開業医・勤務医が問題解決のために団結できる、本当の意味で医療界を代表した組織」に医師会が成長することに他なりません。そう考えると私でも何かできることがあるのではないかと、勝手にやる気が湧いているところです。

さて、私は平成2年に久留米大学を卒業し同大学病院の第二外科に入局しました。今でも同門としてお声がけしていただける元日医会長の横倉義武先生はじめ、同門の諸先輩方が九州各県の医師会でご活躍されており、会合等で再会しますと研修医時代のようにご指導いただけるのは本当にありがたいことです。

沖縄に戻ってからは琉球大学精神科に入局し、実家を継ぐために精神科医としての道を歩み始めました。33歳で病院理事長となり、当時は組織改革に全てを注力し、医師会活動のことは何も知らず、ただひたすら自院の改革に没頭していたのを思い出します。その時に、一人では何もできないことを知ることができたのは幸いでした。

困難な局面を乗り切るためには、知力、胆力が必要です。図らずもコロナ禍でそのことを我々多くの医療関係者も体感しました。医師会活動もまた然り。医療界はこれから多くの領域で困難が待ち受けています。前例がない、道がない、為すすべなし、と思わざるを得ないようなことが目の前に立ちはだかるかも知れません。その時に大事なのは、人との繋がりや連携、柔軟な関係性なのだろうと確信しています。風通しが良く柔軟な対応ができる医師会を目指して頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。